

■荒木田麗(女) 文学者。漢詩・連歌にすぐれ、歴史物語・紀行文など集中的に著作するも、本居宣長の批判に激昂し激減する。

あらきだれい

享保大飢饉・1732= 伊勢国山田下中之郷で、伊勢内宮地下権禰宜榎倉権之進(荒木田武遠)の娘に生まれる。母はその継室で羽黒彦助(秦英満)の娘。はじめ隆といい、のち麗と改めた。

・・・・・・1741= 9歳 :

石田梅岩没・1744=12歳 : 叔父の外宮御師慶徳藤右衛門(荒木田武遇)の養女となる。

徳川吉宗隠居1745=13歳 :

素質を見ぬいた養父から、漢詩文や和歌などを教えられ、

義経千本桜・1747=15歳 : 連歌を作りはじめ、

忠臣蔵・・・1748=16歳 : 大坂の連歌師西山昌林の門に入り、

・・・・・・1750=18歳 : 昌林が伊勢を訪れた際に初対面、師に強い印象を与える。

徳川吉宗没・1751=19歳 :

・・・・・・1752=20歳 : 連歌師里村昌廼の弟子となった。

山脇東洋解剖1754=22歳 : 養父を失う。この頃、慶滋家雅(陶菴)を養子に迎えて結婚。家雅は麗に理解を示し、彼女の学問を大成させるようつとめた。

大式政治批判1759=27歳 :

大岡忠光没・1760=28歳 :

錦絵始・・・1765=33歳 : 「五葉」「須磨の寝覚」成立し、\*著作を始め、

久留米藩工事1768=36歳 : この頃、「豊臣辨」「時につくの辞」成立。家雅が旅行した暇に、「宇津保物語」を研究・校訂。家雅の勧めで京都の江村北海に入門し漢詩を学ぶ。

・・・・・・1770=38歳 :

御蔭参流行・1771=39歳 : この頃から「日本書紀」をはじめ日本史に関する記録と有職の書を耽読し、  
御蔭参流行・1771=39歳 : 「小手巻」「桐の葉」「藤波」「岩橋」「狩場鳥」「花すゝき」「真砂」「夕使」「若葉」成立、\*代表作である仮名国史「池の藻屑」「月の行方」、

田沼意次老中1772=40歳 : 「常陸帯」「桂中将」「野中の清水」「松月」「浜千鳥」「安立が原」成立、\_物語「山の井」30巻、

大原騒動・・・1773=41歳 : 「手枕」「畝火山」「水尾」成立、

解体新書・・・1774=42歳 : 「常磐引歌」「春のかざし」「奈良柴」「桃の園生」成立、

黄表紙始・・・1775=43歳 : 「緒絶橋」「冬木の梅」「武蔵野」成立、

雨月物語刊・1776=44歳 : 「岩代」「ひおり」「水の調」「真木の戸ざし」成立、この間、\_歴史「笠の舎」155巻などを著したが、

・・・・・・1777=45歳 : 「初午の日記」成立。この頃、\*擬古文の物語「野中の清水」を読んだ伊勢在住の国学者本居宣長から、文章仮名遣いの誤りを指摘されると激高し、再三にわたって反論し、宣長を罵る一方、

汐船蝦夷来 1778=46歳 : 「怪世談」成立。この頃までの間に、\*とみに名声も高まるも、以後、著作は激減する。

この間、「荒木田麗女句集」成立。

天明大飢饉始1782=50歳 : 子供がなかったので、佳包を養子とする。「後午の日記」成立。

田沼意次失脚1786=54歳 :

・・・・・・1788=56歳 : 宣長が伊勢を訪れた雲史という人に、麗と対面することを勧めており、評価はされていたらしい。

混浴禁止・・・1791=59歳 : 夫家雅と死別、家事は養子佳包に任せ、連歌の指導をしながら余生を送って、

松平定信引退1793=61歳 :

写楽・・・1795=63歳 :

”心あれやたりぬる寺もとふ人のふむ跡のこすにはの春雨”

いづノ来航・1804=72歳 :

いづノ報復・1806=74歳 : 山田八日市場の自邸で、\_没した。